

2023

大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)のご案内

Master's Degree Program of Graduate School of Nursing

あなたが光輝くために専門職としてのキャリアアップ



国立大学法人

浜松医科大学

大学院医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）では、これまでに修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成することを目的としています。

このため、同専攻では以下の学生を求めています。

◎ 求める学生像

1. 高度な専門知識修得と技術の向上開発を目指す人
保健医療福祉分野における基本的な知識と技術を有する人で、さらに同分野における現在及び将来の諸課題を解決するための、より高度な専門知識の修得と技術の向上開発を目指す人
2. 専門性の高い教育的能力を修得し、関係分野で活躍する意欲のある人
自律的学修能力と応用能力を有する人で、さらに専門性の高い教育的能力を修得して、変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー、教育者、研究者として活躍する意欲のある人
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力、職務実践能力を修得し、関係分野の発展に貢献したい人
専門性と豊かな人間性、そして生命に携わる者としての高い倫理観を有する人で、さらに研究能力及び職務実践能力を身につけ、保健医療福祉分野の発展に貢献したい人
4. 新しい課題にチャレンジする意欲のある人
深い洞察力と論理的思考ができ、かつ科学的探究心を有する人で、さらに最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジする意欲のある人
5. 広く社会に貢献する意欲のある人
国際社会や地域社会に貢献するために必要な素養とコミュニケーション能力を有する人で、さらにグローバル化する保健医療福祉分野における諸課題に対応できる能力を修得し、国内外で広く社会に貢献したい人

◎ 入学者選抜の基本方針

「求める学生像」に沿った人材を、大学卒業者だけではなく看護関連業務の実務経験を有する社会人にも積極的に求めています。修士論文コース・高度実践看護コースでは、英語、小論文、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

助産師養成コースでは、専門科目の学力検査、小論文、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

大学院医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）では、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養うことで、高度な実践力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成するため、以下のような教育課程を編成・実施し、学修成果を評価します。

◎ 教育課程編成の考え方及び学習内容・学習方法

1. 高度な専門知識と技術の向上開発を図る能力
共通科目及び専門科目を開講し、看護学に関する知識と、健康科学に関する専門的な知識を土台に、その上に基盤看護学、成熟期看護学、成育看護学、広域看護学、助産学の5つの専門分野における高度な知識の修得を図ります。
2. 専門性の高い教育的能力
共通科目及び専門科目を開講し、変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー・教育者として、専門性の高い教育的能力を育成します。
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力
共通科目及び専門科目を開講し、現在の看護学や看護実践をさらに発展させるための専門性と倫理観に基づいた実践能力及び各専門分野における科学的探究能力を育成します。
4. 新しい課題にチャレンジできる能力
共通科目及び専門科目を開講し、最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジできる能力を育成します。
5. 文化的、社会的背景を踏まえた社会貢献能力
共通科目及び専門科目を開講し、グローバル化する保健医療福祉分野における諸課題を見据え、国内外で広く社会に貢献できる能力を育成します。

◎ 学修成果の評価方法

授業科目のシラバスの評価方法に基づき、適正に評価します。修士論文または修了課題に関しては審査委員会における論文・口頭試験の内容、公開研究発表会における発表を審査基準に基づいて評価します。

大学院医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）では、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養うことで、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。このため、修了時まで以下に力を備えた学生に学位を授与します。

1. 高度な専門知識と技術の向上開発を図る能力
現在および将来の保健医療福祉分野におけるさまざまな課題を解決するために、研究や理論に裏付けられた高度な問題解決能力。
2. 専門性の高い教育的能力
変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー・教育者としての専門性の高い教育的能力。
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力
現在の看護学や看護実践をさらに発展させるための専門性と倫理観に基づいた実践能力及び各専門分野における科学的探究能力。
4. 新しい課題にチャレンジできる能力
最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジできる能力。
5. 文化的、社会的背景を踏まえた社会貢献能力
グローバル化する保健医療福祉分野における諸課題を見据え、国内外で広く社会に貢献できる能力。

P3 修士論文コース

専門分野、研究領域及び授業科目一覧

基盤看護学

健康科学領域

解剖学、生理学、微生物学、病態生理学、免疫学などの基礎的な知識と研究方法を学びます。これにより、科学的思考を養うことで、看護学のさらなる発展に寄与する人材を育成したいと考えています。

基礎看護学領域

基礎看護学に関する研究方法を学びます。ゼミナールでは、ディスカッションを通して、自分の看護実践を見つめ直すことで、看護の質の向上に寄与する研究指導を行っていききたいと考えています。

P3

成熟期看護学

成人看護学領域

慢性看護、がん看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護、感染看護等に関する看護の質の向上を目指した実践と研究課題を追究しています。楽しく切磋琢磨できるゼミの運営を心がけています。

老人看護学領域

多様な状況にある高齢者と家族の健康に関する諸問題を理解し、基本的な研究能力を修得します。これにより、高齢者の健康障害に関連した社会のニーズに対応できる実践家及び看護研究者の育成を目指しています。

P4

成育看護学

母性看護学領域

関連領域の最新の課題をとりあげ、知識、技術、自己の価値観、倫理性を高める学習を行います。研究の基礎から論文の作成に至るまで、科学的根拠に基づいて丁寧に教授します。

小児看護学領域

小児看護の現状と課題を見据え、小児看護関連の理論の基礎的理解を目指して、小児がん看護、発達障害児の看護等現在のトピックを交えながら学習します。また、小児看護学領域を中心とした看護教育や対人関係の基礎的理論を学習します。「学ぶ楽しさ」を実感してください。

P5

広域看護学

地域看護学領域

地域看護学の概念・理論を教授し、効果的な活動方法を探求します。行政及び産業における健康問題を解決するためのエンパワメント能力の育成。また地域ケアシステムにおける在宅療養に関する保健医療福祉の課題に対する論理的思考を深め、質的・量的研究方法について具体的に丁寧な指導を行います。

精神看護学領域

悩みを抱える人、心を病む人、発達過程にある人等、さまざまな対象におけるメンタルヘルス上の課題に焦点をあて、現状と関連要因を究明し、効果的な援助方法を明らかにするために研究を進めていきます。

P6

授業科目一覧(令和5年度)

授業科目一覧(令和5年度)					
授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	摘要		
共通科目	看護研究	1	2	修論コース 4単位以上を選択	
	看護教育論	1	2		
	看護理論*1	1	2		
	看護倫理*1	1	2		
	看護政策論	1	2		
	看護管理	1	2		
	看護コンサルテーション論	1	2		
	フィジカルアセスメント	1	2		
	病態生理学	1	2		
	臨床薬理学	1	2		
	免疫学	1	2		
病態研究方法論	1	2			
専門科目	基盤看護学	基礎看護学特論*1	1	4	(1) 専門分野のうち主領域の特論及び演習の8単位を選択 (2)(1)で選択した以外の特論4単位以上を選択 (3) 特別研究14単位を必修
		基礎看護学演習	1・2	4	
		健康科学特論	1	4	
		健康科学演習	1・2	4	
	成熟期看護学	成人看護学特論	1	4	
		成人看護学演習	1・2	4	
		老人看護学特論	1	4	
		老人看護学演習	1・2	4	
	成育看護学	母性看護学特論	1	4	
		母性看護学演習	1・2	4	
		小児看護学特論	1	4	
		小児看護学演習	1・2	4	
広域看護学	地域看護学特論	1	4		
	地域看護学演習	1・2	4		
	精神看護学特論	1	4		
	精神看護学演習	1・2	4		
特別研究	2	14			

*1 基礎看護学特論には、看護理論2単位及び看護倫理2単位を含む
(基礎看護学特論を履修しようとする者は、看護理論、看護倫理を選択できない。)

P7 高度実践看護コース(老年看護学)

P8 高度実践看護コース(精神看護学)

P9 助産師養成コース

P10 修了生のことば

健康科学領域

Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる解剖学、生理学、病態生理学、免疫学、微生物学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



秋田 天平 永田 年 山下 寛奈

研究内容

感染免疫学部門	バイオフィーム形成細菌の殺菌、リステリア等の細胞内寄生細菌に対する免疫応答に関する研究等を行っています。
病態生理・病理学部門	細胞に発現する様々な種類のイオンチャネルの生理的連携機構が、種々の疾患において破綻すること、特にてんかんや神経発達障害でのその機序を明らかにし、より合理的な治療法を見出すことを目指しています。
形態機能学部門	動物の組織や培養細胞などを用いて、ニューロンの分化、皮膚の上皮化に関する研究等を行っています。

教員の研究テーマ・主な業績

永田 年(教授)・・・微生物学、免疫学

- 1) Yokomizo T, Nagata T, et al. Perception of mutual aid and its related factors: a study of Japanese high school students. *BioSci Trends*, 14(6), 457-459, 2021.
- 2) 小山順子, 永田 年. 循環器病棟看護師の歯周炎に関する知識・認識の現状. *日本口腔ケア学会誌*, 15 (1), 17-23, 2020.
- 3) Matsui Y, Nagata T, et al.: Three-year prospective, observational study of central line-associated bloodstream infections in a 600-bed Japanese acute care hospital. *Am J Infect Control*, 43, 494-498, 2015.

秋田 天平(教授)・・・病態生理学、神経生理学

- 1) Aoto K, Kato M, Akita T, et al. *ATP6V0A1* encoding the $\alpha 1$ -subunit of the V0 domain of vacuolar H⁺-ATPases is essential for brain development in humans and mice. *Nat Commun*, 12:2107, doi:10.1038/s41467-021-22389-5, 2021.
- 2) Akita T, Fukuda A, Intracellular Cl⁻ dysregulation causing and caused by pathogenic neuronal activity. *Pflugers Arch*, 472(7):977-987, 2020.
- 3) Akita T, Aoto K, Kato M, et al., De novo variants in *CAMK2A* and *CAMK2B* cause neurodevelopmental disorders. *Ann Clin Transl Neurol*, 5(3):280-296, 2018.

山下寛奈(准教授)・・・解剖学、生理学、組織学

- 1) Miura K, Yamashita K: Acoustic histology with specific dyes and antibodies. *Ultrasound Med Biol*: 45(12): 3279-3289. 2019.
- 2) Yamashita K, Mikawa S, Sato K: BMP3 expression in the adult rat CNS. *Brain Res* 1643: 35-50, 2016.

基礎看護学領域

Fundamental Nursing

基礎看護学領域では、看護技術や看護教育方法の創出、看護管理、看護倫理、様々な看護場面における心理的側面の検討等に関する質的・量的研究を通じ、看護学と看護実践の発展に寄与することを目指します。研究指導は、各自が興味・関心を持つテーマについて、関連論文の抄読・検討、研究計画の作成から研究の実施、関連学会での発表、論文作成まで、セミナーなどグループでのディスカッションを中心とし、学生の個別の事情に合わせて個人指導も行います。



青木 好美 村松 妙子 長嶋 英里

研究内容

看護学教育	看護学教育における様々な課題の解決に向け、看護の技能のアクティブラーニングなど、新たな教育方法の開発と実装・効果検証などの研究に取り組んでいます。
看護場面の心理的側面の検討	ケア従事者のコンピテンシーの抽出と教育プログラム作成、看護学生・看護職者のメンタルヘルスや看護師のキャリア開発、看護師の共感能力、それらに関連する抽象概念を測定するための尺度開発等、心理学の知識を応用した研究に取り組んでいます。
看護における倫理	看護職に必要な倫理的コンピテンシーの教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

村松 妙子(准教授)

- 1) 片山はるみ, 村松妙子, 青木好美, 長嶋英里, 金原あみ, 秋田天平: 新カリキュラム施行1年で見えてきた新しい看護基礎教育のかたち PART3 新年度から新たに取り組む科目の展望 アクティブラーナーを育てる. *看護展望*48(4): 148-152, 2023.
- 2) 村松妙子, 片山はるみ: 新型コロナウイルス感染症の流行に伴って医療従事者が経験した職務上の倫理的問題, *日本看護科学学会誌*, 2022. DOI: 10.5630/jans.42.55
- 3) Katayama H, Muramatsu T, Aoki Y and Nagashima E: Psychometric evaluation of the Ethical Caring Competency Scale in nursing, *BMC Nursing*,22(43), 2-13, 2022, DOI: 10.1186/s12912-022-00886-2
- 4) 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生の倫理的感受性質問票 (ESQ-NS) の有用性の検討, *日本看護倫理学会誌*, 13(1), 32-41. 2021. DOI.org/10.32275/jjne.19015
- 5) 片山はるみ, 村松妙子: 看護実践における倫理的ケアのコンピテンシー評価票原案の作成, *日本看護倫理学会誌*, 13(1), 3-13. 2021, DOI: 10.32275/jjne.20200501.
- 6) Muramatsu T, Nakamura M, Okada E, Katayama H, Ojima T: The development and validation of the Ethical Sensitivity Questionnaire for Nursing Students, *BMC Medical Education*, 19: 215, 2019, DOI: 10.1186/s12909-019-1625-8.
- 7) 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生が4年間の看護基礎教育の中で経験した倫理的問題場面とその対応, *日本看護倫理学会誌*. 11(1), 50-58. 2019.

成人看護学領域

Adult Nursing

成人看護学領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護、感染看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



杉山 琴美 河島 光代
脇坂 浩 佐藤 直美 影山 葉子

研究内容

がん看護	がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析し、質の高い療養生活支援のための看護を検討する。
慢性看護	慢性疾患患者の疾患のとりえ方や療養生活におけるセルフケアについて分析し、効果的な看護介入を検討する。
急性期看護	クリティカルな状況における患者やその家族の体験を明確にし、回復や安寧に導く看護援助について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。
家族看護	成人期・老年期の患者とその家族を1つのユニットとしてとらえ、家族のもつ健康問題に対する看護について検討する。
感染看護	効果的な感染予防と迅速な対処ができる感染制御体制の構築と看護技術の開発、隔離を受けた感染患者への適切な看護援助について検討する。

教員の研究テーマ・主な業績

佐藤 直美 (教授)・・・がん看護, 遺伝看護, 慢性看護

- 1) 佐藤直美:成人期にある人を看護するための基本的な考え方 成人学習を促進する. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編) 成人看護学概論第4版, 南江堂, pp209-213, 2022.
- 2) 佐藤直美:慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 健康信念. 成人患者への教育的アプローチ. 相談技術. 鈴木久美, 旗持知恵子, 佐藤直美 (編) 成人看護学慢性期看護第3版, 南江堂, pp81-83, 101-110, 2019.
- 3) Sato N, Sato T, et al.: Genetic aspects of smoking behavior in the Japanese population, Preedy VR, ed. Neuropathology of drug addictions and substance misuse Vol 2. London, Elsevier, 1046-1054, 2016.

脇坂 浩 (教授)・・・急性期看護, 感染看護

- 1) Wakisaka H: Inspection of the situation of the intraoral state and opportunistic pathogens in non-ingesting patients due to specialized mouth care. Journal of Japanese Association of Infection Control Nursing, 9(1), 1-9, 2020.
- 2) 脇坂浩, 武並元紀: ICUで術後せん妄を発生した患者への看護介入に関する事例検討. 三重県立看護大学紀要, 23, 1-9, 2019.
- 3) 脇坂浩: 感染症. 奥野茂代 (監), 大西和子 (監), 百瀬由美子 (編) 老年看護学概論と看護の実践第6版, ニューウェルヒロカフ, pp360-369, 2019.

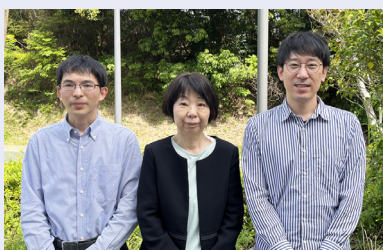
影山 葉子 (准教授)・・・家族看護(退院・移行支援, 家族の意思決定支援, ジェンダー関連)

- 1) 影山葉子, 三部倫子: 家族看護学におけるLGBTと「家族」—総説・レビュー文献の検討から— . 保健医療社会学論集, 33(1), 88-99, 2022.
- 2) 杉村友美, 秋元美佐枝, 影山葉子: 救急外来で緊急心臓カテーテル検査・治療を受けた急性冠症候群患者の家族の心理状況. 家族看護学研究, 28(1), 30-41, 2022.

老人看護学領域

Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



稲垣圭吾 鈴木みずえ 金盛琢也

研究内容

認知症をもつ高齢者がよりよく生きるための看護実践方法の開発	認知症のために記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、その人のケアに関わる看護師も含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念に地域・急性期病院・高齢者施設のあらゆる場における認知症看護のあり方を追求していきます。
介護予防に関する看護実践の開発	高齢者になると老化現象に伴う肉体的・精神的な仕組みや働きが低下して、特有の症状・病態、さらに心身の障害に陥る老年症候群(生活機能低下、転倒骨折、排泄障害、摂食嚥下障害など)を起こしやすくなり、看護の専門性の高い実践が高齢者の生命予後にも影響しています。転倒・骨折などの老年症候群の原因分析やそれらを引き起こす痛みのアセスメント、さらには予防に関する看護方法を開発しています。
ICTを活用した高齢者・慢性疾患患者のケア方法の開発	糖尿病や慢性心不全等の慢性疾患を持つ患者に対し、セルフマネジメント能力を高め、より良い健康管理を実現する方法として、スマートフォンなどのアプリケーションの開発やその有効性を検証する研究に取り組んでいます。
在宅高齢者の疼痛の実態、疼痛が及ぼす日常生活への影響	その他にも、高齢者のその人が本来もっている力や心身の機能の維持・改善を支えるための看護、保健・医療・福祉システムの中での多職種連携における看護専門性の明確化もまた、取り組むべき課題と位置付けています。

教員の研究テーマ・主な業績

鈴木 みずえ (教授)・・・高齢者の介護・転倒・認知症予防のための看護介入方法・ケアシステムの開発、高齢者のQOLの向上のための看護介入・看護ケア効果評価

- 1) 鈴木みずえ, 吉村浩美, 宗像倫子, 鈴木美恵子, 須永訓子, 勝原裕美子, 桑原弓枝, 水野裕, 長田久雄: 急性期病院の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアをめざした看護実践自己評価尺度の開発. 日本老年看護学会誌, 20, 36-46, 2016.
- 2) Suzuki M, et al, Effects of a Fall-Prevention Program for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care, International Journal of Gerontology, S23-S28, 2019

金盛 琢也 (講師)・・・再入院予防、遠隔モニタリング、世代間交流

- 1) 金盛琢也, 亀井智子, 山本由子: 都市部多世代交流型ダイログラムにおける参加高齢者特性および活動内容別の世代間交流の評価. 日本世代間交流学会誌 6(1): 83-88, 2017.
- 2) Kamei T, Yamamoto Y, Kanamori T, Nakayama Y: Detection of early-stage changes in people with chronic diseases: A telehome monitoring- based telenursing feasibility study. Nursing & Health Sciences 20(3):313-322, 2018.

成育看護学

母性看護学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在日外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



東 真梨子 齊本 美津子 木村 幸恵
安田 孝子 武田 江里子

研究内容

女性へのケア	妊娠糖尿病になった女性の分娩後の経過と医療チームの支援のあり方、子育て中の母親のおしゃれ意識と子どもへの思い、母親が出産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などに取り組んでいます。
子育て支援	母親の養育者としての発達、周産期の女性の気質に応じた支援およびSAT法 (Structured Association Technique)を用いた支援を研究しています。在日外国人も含む母子・家族を対象としています。

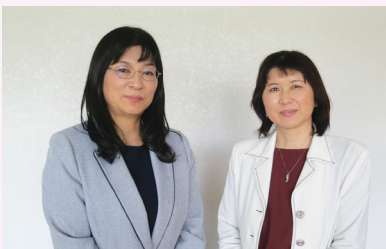
教員の研究テーマ・主な業績

- 安田 孝子 (教授)・・・妊娠糖尿病既往のある女性の出産後の支援、母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルチリトメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が出産後に再喫煙する実態、月経周期と生活行動と精神的要因の関連
- 安田孝子：子どもが1歳6か月と3歳の時の母親の状況，第33回日本助産学会学術集会，福岡，2019. 3. 2-3.
 - Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y: Relationship between maternal fashion consciousness and mothers feelings about their child rearing among Japanese women who raise their 18-month-old child. 31th International Confederation of Midwives, Toronto, Canada, 18-22 June 2017.
 - 修士生の研究
青木真里, 安田孝子:高校生ライフプランと妊孕性知識の実態調査, 日本女性心身医学会誌, 26(2), 189-195, 2021.
東真梨子, 安田孝子:助産師が10代妊婦と信じ合える関係を構築していくプロセス. 日本母性衛生学会誌, 63(4), 758-766, 2023.
- 武田 江里子 (教授)・・・母親の養育者としての発達に関する研究、周産期の母親の気質に応じた支援、SAT (Structured Association Technique: 構造化連想)法を用いた子育て支援、在留外国人の母子支援、尺度開発
- 武田江里子, 他:在日外国人である母親の望む子育て支援と影響要因-国籍・気質・「愛着-養育バランス」尺度との関連一, 日本母性衛生学会誌, 59(4), 770-776, 2019.
 - 武田江里子, 他:乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着-養育バランス」に影響する内的要因-母親の被養育体験と内的作業モデルの影響一, 日本看護科学会誌, 36, 71-79, 2016.
 - 修士生の研究
富岡ほなみ, 武田江里子:産後6ヵ月時の授乳形態に関連する要因および母親の育児生活肯定感への影響要因, 日本母性衛生学会誌, 62(4), 419-426, 2022.
吉中富士美, 武田江里子:産後のストレス状態と「愛着-養育バランス」尺度との関連, 日本母性衛生学会誌, 64(1), 2023.

小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、子どもの成長・発達や健康問題に関する専門的な知識を学習するとともに、家族を中心とする視点から子どもの成長発達や健康管理に関する看護および家族への支援を学びます。また、少子高齢化等さまざまな社会の変化に対応するために、子どもを取り巻く環境と子どもの健康、あるいは小児看護の現状と課題についても学習し、社会に求められる看護職の役割について検討します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



坪見 利香 宮城島 恭子

研究内容

障害のある子どもの看護	発達障害児や医療的ケア児など様々な障害をもつ子どもとその家族への看護援助のあり方について検討しています。
小児がん・思春期の看護	がんなど慢性疾患をもつ子どもの思春期・成人期への発達過程を見据えて、健康管理、学校を中心とする社会生活の支援、長期的支援のあり方を検討しています。
看護学教育に関する研究	小児看護学に関する効果的な教育方法や、医療と教育の連携に関する教育方法を検討しています。

教員の研究テーマ・主な業績

- 坪見 利香 (准教授)・・・障害をもつ子どもにかかわる看護職への支援
- 坪見利香・水野智美:看護師・医療スタッフのための発達障害傾向のある子どもの診療サポートブック, 診断と治療社, 2020.12
 - 大塚敏子・巽あさみ・坪見利香:発達上気になる子どもの保護者支援に関する保健師-保育士連携活動自己評価尺度の開発, 日本地域看護学会誌22(1), 4-12, 2019.
 - 発達障害児に対する看護実践に関する研修プログラムの開発-短期的効果の検証-, 障害理解研究18, 1-10, 2017.
- 宮城島 恭子 (講師)・・・小児がん看護、がんサバイバーへの支援、思春期看護
- Miyagishima, K., Ichie, K., Sakaguchi, K., & Kato, Y. (2023). The process of becoming independent while balancing health management and social life in adolescent and young adult childhood cancer survivors. Japan Journal of Nursing science, e12527. <https://doi.org/10.1111/jjns.12527>
 - 宮城島恭子, 他:小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス — 思春期から成人期にかけて病気を自身の生活と心理面に引き受けていくことに着目して一, 日本看護研究学会雑誌, 40(5), 747-757, 2017.
 - 宮城島恭子, 他:小児がんをもつ子どもの学校生活の調整に関する意思決定プロセスと決定後の気持ち — 活動調整と情報伝達に焦点を当てて一, 日本小児看護学会誌, 26, 51-58, 2017.

地域看護学領域

Community Health Nursing

地域看護学領域は公衆衛生看護学と在宅看護学の2分野で構成されます。公衆衛生看護学は患者・家族を対象とした看護から、社会で暮らし活動する人々や「集団」を対象として社会に働きかける特徴があります。在宅看護学では、疾病や障害を抱えながら地域で暮らす療養者の生活を支援する看護実践や在宅療養に関する社会的な課題を扱います。月1回のゼミと個別指導を通じて研究能力を育成します。



影山 淳 高部さやか
 鳥本 靖子 渡井 いずみ 山本 真実

研究内容

公衆衛生看護	地域における子育て支援、生活習慣病対策、メンタルヘルス対策、学校保健等における看護活動や、その基盤となる地域や社会システムの構築と評価、保健師教育に関する研究。
産業看護	働く人々を対象とした保健活動。特に両立支援、職場のメンタルヘルス、地域職域連携に関する研究。
地域・在宅看護	在宅療養に関する保健医療福祉の研究課題(ヘルスサービスリサーチ)に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

渡井 いずみ (教授)・・・ワーク・ライフ・バランス, 地域職域連携, 産業看護, 保健師教育

- 1) 渡井いずみ: 小規模事業場へのメンタルヘルス支援, 産業ストレス研究, 29(4),357-364, 2022.
- 2) Randomized controlled trial of Web-based weight-loss intervention with human support for male workers under 40.: Itsuko Ozaki, Izumi Watai, Mariko Nishijima, Noboru Saito, Journal of Occupational Health, 61, 110-120, 2019.

山本 真実 (准教授)・・・行政保健活動における対象者の理解、行政保健師の実践活動、学校保健

- 1) Mami Yamamoto: How Children with Autism Spectrum Disorder Perceive Themselves: A Narrative Research, Japan Journal of Nursing Science, Early View,2021. doi:10.1111/jjns.12420.
- 2) 山本真実, 門間晶子, 浅野みどり: 継続的な子育て支援のための対話—保健師が心がける対話の姿勢—, 日本看護科学学会第41回学術集会, 2021年12月4-5日.

鳥本 靖子 (准教授)・・・地域で暮らす療養者・家族介護者への支援、訪問看護師の実践活動

- 1) Yasuko Torimoto, et al., Recommendations Regarding the Future Agenda of Social Resources in Home-Visit Nursing Care under the Community-based Integrated Care System: A Literature Review, the 7th International Nursing Research Conference of WANS, Taipei, Taiwan, October 20-21, 2022
- 2) Yasuko Torimoto, Ayumi Igarashi, Takashi Wada, Yasuko Ogata and Noriko Yamamoto-Mitani: Female family caregivers face a higher risk of hypertension and lowered estimated glomerular filtration rates: a cross-sectional, comparative study, BMC Public Health 2015, 15:177

精神看護学領域

Psychiatric-Mental Health Nursing

精神看護学領域では、精神的な困難を抱える人を支える多職種チームの一員として、疾病予防から入院治療、そして治療後のリハビリテーションから長期的に安定した生活まで、対象者の「こころ・からだ・くらし」を俯瞰的に理解し、その人生の様々な場面において良き伴走者になれるような看護実践を支える教育・研究に貢献する人材の養成を目指し、学部、博士前期課程（修士論文コース、高度実践看護コース）、博士後期課程の教育を担っています。



木戸 芳史 増田 郁美

研究内容

修士論文コース

修士論文コースでは、研究室で推進している研究課題はもちろん、学生の臨床バックグラウンドや興味関心に応じて研究活動を支援します。修士論文コースにおいて履修が必要な科目の多くは、対面とオンライン(ライブ配信)のハイブリッドで受講することができますし、研究指導も大学院生の希望に応じてオンラインでも行います。遠方から受験希望の方もぜひご相談ください。

高度実践看護コース

高度実践看護コースでは、日本看護系大学協議会(JANPU)から認可をうけたカリキュラムに基づいて、精神看護専門看護師(CNS)の養成を行っています。詳細はP8をご覧ください。本領域への進学・受験を希望される方は、必ず事前にメール等にてご相談ください。1人1人のキャリアや将来ビジョンをお伺いし、修了後のキャリアまで念頭において、進学相談をさせていただきます。

教員の研究テーマ・主な業績

木戸 芳史 (教授)

- 1) Kido Y, Kawakami N, Kayama M. Comparison of hospital admission rates for psychiatric patients cared for by multidisciplinary outreach teams with and without peer specialist: a retrospective cohort study of Japanese Outreach Model Project 2011-2014. BMJ Open. 8(8). e019090. 2018
- 2) Tsunoda A, Kido Y, Kayama M. Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services: Comparison of care between higher-functioning and lower-functioning groups. Japan Journal of Nursing Science. 15(2). 181-191. 2018
- 3) Kido Y, Kayama M. Consumer providers' experiences of recovery and concerns as members of a psychiatric multidisciplinary outreach team: A qualitative descriptive study from the Japan Outreach Model Project 2011-2014. Plos One. 12(3). e0173330. 2017
- 4) Kayama M, Kido Y, Setoya N, Tsunoda A, Matsunaga A, Kikkawa T, Fukuda T, Noguchi M, Mishina K, Nishio M, Ito J. Community outreach for patients who have difficulties in maintaining contact with mental health services: longitudinal retrospective study of the Japanese outreach model project. BMC psychiatry. 14(1). 311. 2014
- 5) Kido Y, Kawakami N, WMHJ survey group. Sociodemographic determinants of attitudinal barriers in the use of mental health services in Japan: findings from the World Mental Health Japan Survey 2002-2006. Psychiatry and clinical neurosciences. 67(2). 101-109. 2013
- 6) Kido Y, Kawakami N, Miyamoto Y, Chiba R, Tsuchiya M. Social Capital and Stigma toward People with Mental Illness in Tokyo, Japan. Community mental health journal. 49(2). 243-247. 2013

高度実践看護コース

老年看護学

【本コースの目的】

高度実践看護コース（老年看護学）では、高齢者とその家族がよりよく過ごし、最期までよりよく生きることを支える看護実践を学修します。

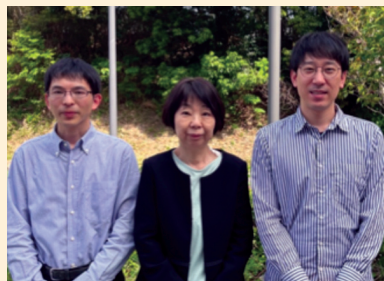
わが国は世界一の長寿国であり、2025年には国民の4人に1人が後期高齢者になると予測されています。仕事や社会貢献、趣味などで活躍し自立している高齢者も増加していますが、一方で加齢現象に加えて認知症等の様々な健康障害によってケアを要する高齢者も増加しています。高度実践看護コース（老年看護学）では、このような多様な健康状態にある高齢者に対する看護のあり方を探求します。

高齢者への看護は、急性期病院や療養病床、介護施設、在宅等の様々な場において提供されています。それぞれの実践の場の特性や高齢者の一人ひとりの人生のあり方を踏まえて、最期まで豊かな人生を送るための専門性の高い老人看護の実践や倫理観を探究します。老年看護の全体の質の向上をめざして、多くの看護職が本コースで学修し、それぞれの実践の場で活躍されることを期待しています。

【本コースの特徴】

本コースは老人看護専門看護師教育課程（38単位）として認定を受け、令和3年度より開設された新しいコースです。本コースの修了により、日本看護協会が認定する老人看護専門看護師の受験資格を得ることができます。

現在は5名の大学院生が本コースに在籍し、病院等で勤務を続けながら高齢者への看護実践について学習を続けています。



稲垣圭吾 鈴木みずえ 金盛琢也

お問い合わせ

老年看護学 金盛琢也

TEL.053(435)2509

E-mail: takukana@hama-med.ac.jp

授業科目・単位数

授 業 科 目		単 位 数	摘 要
共通科目A	看護研究	2	共通科目A 8単位以上履修
	看護教育論	2	
	看護理論	2	
	看護倫理	2	
	看護政策論	2	
	看護管理	2	
	看護コンサルテーション論	2	
共通科目B	病態生理学	2	共通科目B 6単位履修
	フィジカルアセスメント	2	
	臨床薬理学	2	
専門科目	高齢者看護学概論	2	専門科目 28単位履修
	高齢者アセスメント論	2	
	高齢者疾病・治療論	2	
	高齢者・家族看護論	2	
	高齢者地域システム論	2	
	高齢者看護学演習Ⅰ（認知症）	2	
	高齢者看護学演習Ⅱ（急性期）	2	
	認知症看護実習	6	
	急性期看護実習	4	
	高齢者看護学課題研究	4	

履修単位数：42単位以上

上記科目の他、月2回の研究ゼミ等により、研究指導が行われます。

研究ゼミでは論文コースの大学院生と合同で活発なディスカッションが行われています。

【実習病院】

国立長寿医療研究センター、聖隷三方原病院、西山病院等

高度実践看護コース

精神看護学

【精神看護専門看護師とは】

精神看護専門看護師は、複雑で解決が難しい健康問題を抱えた人々に対して、精神看護の知識や技術を用いながら質の高い看護ケアを提供するスペシャリストです。精神科で入院治療を受けている方や社会生活をしながら療養されている方、身体疾患の治療を受ける中で精神的な問題を抱えている方、さらにはそのような方々を支えているご家族、そして治療や看護を提供しているスタッフに対して、精神看護の専門性を発揮した支援やコンサルテーション、調整や教育などを提供しています。

精神看護専門看護師が活動している場所は病院や地域など、ポジションもスタッフ・管理者と様々ですが、俯瞰的な視点でアセスメントを行い、患者・家族・医療者と連携した幅広い活動を展開しています。診療報酬制度による評価も広がり、13領域ある専門看護師の中でも2番目に認定者が多く、社会的需要が非常に高い認定資格です。



木戸 芳史 花田 敦子

【本コースの特徴】

日本看護系大学協議会（JANPU）から認可をうけたカリキュラム（38単位）に基づいて精神看護専門看護師の養成を行う、静岡県内では本学のみが開設しているコースです。本コースにおいて所定の単位を取得し修了することで、日本看護協会の専門看護師認定試験を受験する資格が得られます。

基本的に看護師としての臨床経験が5年以上ある方を対象としています。精神科での臨床経験については大学院での学修内容や修了後のキャリアとも関係しますので、事前にスタッフにご相談ください。

【本コースでの学修】

専門看護師の認定試験を受験するために必要とされる科目・単位が多いため、常勤のお仕事を続けながらであれば長期履修制度を適用して3～4年間で、学生専業であれば2年間で修了を目指します。3年間で修了を想定した履修モデルについては下表をご参照ください。共通科目は平日夜を中心に、専門科目は土曜午前を中心に開講される予定です。

特に本学医学部附属病院等における臨床実習には通算で10週間以上の期間を必要とします。常勤のお仕事を続けながらの進学を希望される場合は、勤務シフトへの配慮、休暇の取得など職場との調整が前提となります。まずはスタッフにご相談ください。

本コースは2022年4月に開設され、1期生3名、2期生2名の計5名の大学院生が在籍しています。

特任助教の花田は、本学附属病院の精神看護専門看護師（リエゾン精神看護）でもあり、臨床と教育を併任しています。また、学内からは医学科の教員が、学外からも多くの専門性の高い非常勤講師が皆さんの成長をサポートします。

年次	前期	後期
1年次	共通科目(A・B)	共通科目(A・B)
2年次	専門科目(特論)	専門科目(演習)
3年次	実習	課題研究

精神看護専門看護師は、こんな活動をしています

効果的なケアの提供	医療チームへのサポートや教育	ケアシステムの構築や変革の促進
<ul style="list-style-type: none"> 身体疾患の治療中に精神的にも不安定になった患者さまやそのご家族への療養相談や生活の調整 深刻な精神障がいをもつ患者さまへの直接ケア 長期入院患者の退院促進 倫理的問題解決を目指したケアや医療スタッフ間の調整など 	<ul style="list-style-type: none"> 医療スタッフに対するメンタルヘルスサポート コンサルテーション活動による看護ケアの質の向上 院内教育プログラムの企画・セミナー講師 医療スタッフに対する研究サポート 組織における委員会活動活性化への支援など 	<ul style="list-style-type: none"> エビデンスに基づいた新しいケアモデルの導入 地域支援体制づくり 医療事故に遭遇した医療スタッフのメンタルヘルスサポート体制の整備など

本コースでの教育課程を通して、精神看護専門看護師に必要とされる6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)が実践できるよう、専門的な知識と技術の学修を体系的に行います。

助産師養成コース

助産学

助産師 Midwife ... Mid + wife

助産師 (Midwife)とは、女性とともにいる女性を意味しています。周産期の母子・家族はもちろんですが、女性とそこに関わる人々を生涯にわたって支援していく専門職です。本学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした教育を行います。母子と家族及び女性とパートナーシップを築き、対象に寄り添い、いかなる対象のニーズにも応え得る高度な診断能力・科学的根拠に基づいた質の高い実践能力・研究能力・教育力を身に付け、マネジメント力を培い、地域の周産期医療の充実、国際的視野を持って母子保健の発展に貢献でき、対象をよりよい状態に導くことのできる人材の育成を目指しています。



齊本 美津子 安田 孝子
東 真梨子 武田 江里子 木村 幸恵

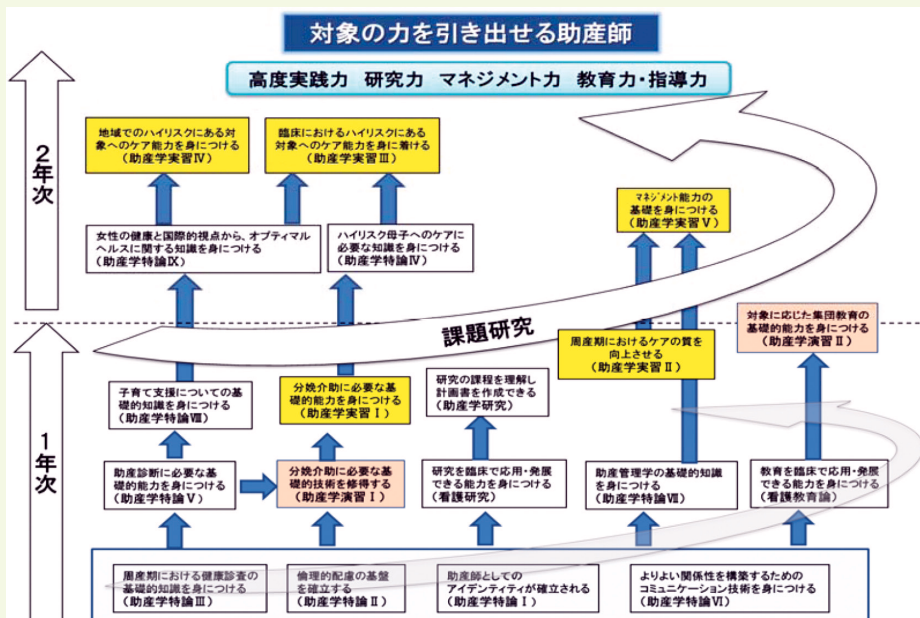
授業科目及び単位数							
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	必修・自由 必修 自由		
共通科目		看護研究	1	2	○		
		看護教育論	1	2	○		
		看護理論		2		○	
		看護倫理		2		○	
		看護政策論		2		○	
		看護管理		2		○	
		看護コンサルテーション論		2		○	
		フィジカルアセスメント		2		○	
		病態生理学		2		○	
		臨床薬理学		2		○	
		免疫学		2		○	
		病態研究方法論		2		○	
4単位							
専門科目	助産学	助産学特論Ⅰ 概論/ヒューマン・セクシュアリティ	1	2	○		
		助産学特論Ⅱ 生殖生命倫理/遺伝学	1	2	○		
		助産学特論Ⅲ 周産期学	1	3	○		
		助産学特論Ⅳ ハイリスク	2	1	○		
		助産学特論Ⅴ 助産診断技術学	1	3	○		
		助産学特論Ⅵ 教育方法論/ソーシャルスキル	1	2	○		
		助産学特論Ⅶ 助産管理学	1	2	○		
		助産学特論Ⅷ 地域/乳幼児/DV・虐待	1	3	○		
		助産学特論Ⅸ ウィメンズヘルス/多文化共生	2	2	○		
		助産学演習Ⅰ 助産診断技術学/東洋医学	1	3	○		
		助産学演習Ⅱ 健康教育	1後~2前	3	○		
		助産学実習Ⅰ 分娩助産/継続事例	1	11	○		
		助産学実習Ⅱ 助産院/継続事例	1後~2前	5	○		
		助産学実習Ⅲ ハイリスク	2	6	○		
		助産学実習Ⅳ 地域	2	3	○		
助産学実習Ⅴ マネジメント	2	1	○				
52単位							
研究		助産学研究	1	1	○		
		課題研究	2	4	○		
5単位							
修了に必要な単位数				計61単位以上			

履修単位数 61単位 ※本コースには長期履修制度は適用できません。

カリキュラムの特徴

1年次に助産師として必要な基礎的能力及び研究のための基礎的能力を身に付けます。課題研究は、自分の興味関心のあるテーマを絞り込み自由に行います。全ての科目の中で問題意識を持って取り組むことで、自らの課題の明確化及び研究の必要性について学び、課題研究を通して高度実践力・研究力・マネジメント力・教育力・指導力の統合を図ります。演習・実習の中では、在留外国人も含む様々な対象へのケアとして5つの健康教育を実施します。必修単位の半数を演習及び実習に費やしており、実践力が強化できるカリキュラムとなっています。

- 修了後は、
- ・修士(看護学)
 - ・助産師国家試験受験資格
 - ・受胎調節実地指導員申請資格
 - ・新生児蘇生法「専門」コース(A)認定が取得できます



- 【実習施設】**
- 病院 クリニック**
- 浜松医科大学附属病院
 - 浜松医療センター
 - 木村産科・婦人科
 - 磐田市立総合病院
 - 聖隷浜松病院
- 助産院**
- くさの助産院
 - 和助産院
 - お茶畑助産院
 - ほほえみハウス
 - とみおか母乳ケアhouse
 - 川淵助産院
 - 高林助産院
 - よこさわ助産院
- 地域**
- 浜松市
 - 掛川市
 - 子育て支援ひろば
 - 静岡県女性相談センター
 - 子ども虐待防止センター
 - 富士見こどもクリニック
 - 思春期健康相談室
 - ムンド・デ・アレグリア学校
 - 多文化共生しんえい保育園

Matsuura Fuminori



令和5年3月修了
成人・老人看護学
修士論文コース
松浦文則

私は2009年に浜松医科大学を卒業後、現在は市内の病院に就職し主に急性期領域で看護師として働いています。私が大学院に進学したきっかけは、臨床で経験を積むなかで、患者に提供する看護や処置について疑問を持った時に自分で解決する力が必要だと感じたことでした。また、今後の自身の専門性を高めるにあたって、研究を行う能力が必須になると考え自ら進学を決めました。

入学当初、私には就学前の2人の娘がおり、家庭と仕事に学業を加えることは私のみならず、家族にも多大な苦労をかけたと思っています。私自身も『学ぶ時間をつくる』ことは簡単なことではありませんでした。しかし、自分で考えた研究テーマを解決するために課題をひとつずつクリアしていく過程は臨床の場では体験できない達成感を感じ、自身の成長を確かに感じることでできる充実した3年間となりました。勿論、家族の協力がなければ卒業は成しえなかったと感じています。

このように、社会人の私が大学院生として学ぶことは、容易なことではありませんでした。しかし、先生方の指導や、施設・分野の枠を超えたゼミの仲間たちとの交流が励みとなり乗り越えることができました。大学院生としての学びだけでなく、関わった方々との交流や時間そのものが卒業後も私の大きな財産となっています。卒業後もゼミのメンバーとの交流は続いており研究論文の学会発表や学術誌投稿に向け邁進しています。

この写真は、先生とゼミの仲間で行った卒業後の打上げでの写真です（中央の下が私です）。このような同じ志をもった素敵な仲間ができて大学院に進学して本当に良かったと実感しています。

Kinpara Ami



令和5年3月修了
基礎看護学
修士論文コース
金原あみ
(旧姓伊藤)

私は、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）を導入している病院で看護師として仕事をしてきました。PNSでは、パートナーと話し合っケアの方針を決定できる安心感がある一方で、パートナーという対等な関係のなかで後輩を育てることの難しさや、PNSにおいて自分の判断力や思考力は成長しているのか疑問を感じました。その疑問に対して研究的に取り組むことは、キャリアアップにもつながると思い、大学院進学することを決めました。

授業やゼミで看護とは違う分野で働いている方や、普段は話すことができないような看護に熟達した先輩方との交流、文献検討を重ね、感じていた疑問を研究テーマにしていくことができました。

そして、大学院進学をきっかけに大学教員として働く機会をいただき、これまでよりも研究が身近になり、学内研究プロジェクトへの応募や、学術集会での口頭発表に挑戦することができました。また、在学中に結婚というライフイベントも迎え、たくさんの変化と学業の間で戸惑うこともありました。その度に先生方やゼミでお会いした方々や家族に支えられて修士課程を修了できたことは、看護師として自信がなかった自分が変わるきっかけとなるとも貴重な経験でした。

これからは、大学で研究に携わっていく者として、より一層、研究に取り組み、その結果を現場で働いている看護師に還元していきたいと考えています。

Ueda Satsuki



令和5年3月修了
助産学
助産師養成コース
上田さつき

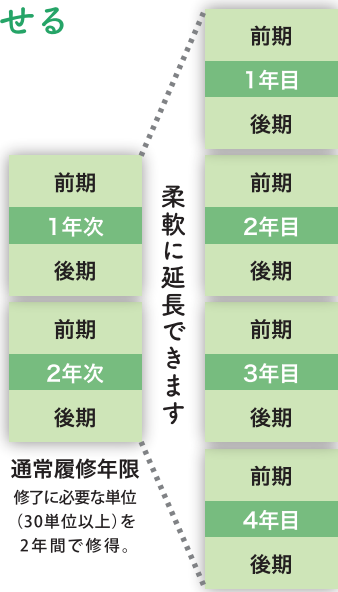
大学院では、分娩介助を担う技術を習得するだけでなく、在留外国人を含む様々な対象者への健康教育や授乳支援、産後ケア、遺伝カウンセリング、地域における子育て支援について幅広く勉強し、学びを深めることができました。また、講義や実習と並行して課題研究に取り組みました。自分が関心のある事象を研究可能な疑問へ構造化することは容易ではなく、悩みつまずきました。困難で支えになったのは、先生方の温かご指導でした。困った時や悩んだ時に研究室に何うと、解決するまで寄り添い導いてくださいました。ゼミでは同期と活発に意見を交わし、論文として形になっていく過程はとても楽しかったです。大学院では、自分の関心事や得意分野を追究できるのでとても魅力的だと感じています。2年間を通して得た経験を、今後の助産師人生の中で成長の糧にしていきます。

現在は、総合周産期母子医療センターに指定されている病院に就職し、配属はNICUとなりました。当初は、産科での臨床経験がない中助産師として働くことに不安を抱きました。しかし、どこで働くかよりもそこで何をやるかが重要だと思います。自分が助産師になった意味をどのような場面で見出すことができるのかを考え、そして大学院の2年間で培った多角的な視点で対象のニーズに応えるケアを実践できるよう頑張ります。助産師の活動の場は様々であり、多くの選択肢があります。私は赤ちゃん側からの目線で、児と母親・家族のサポートができる助産師になっていきたいです。

長期履修制度

学ぶ期間を延ばせる

2年分の授業料で、履修年限を延長して、修了に必要な単位(30単位以上)を3~4年間で修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。ただし、助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



通常履修年限
修了に必要な単位
(30単位以上)を
2年間で修得。

昼夜開講制

一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルにあわせて無理のないペースで学べます。



浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)は、現在臨床の場で活躍している看護師や保健師等も気軽に学べる場です。カリキュラムも「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて自由に組み立てられるようにしています。

図書館

図書館では、看護学分野の専門書をはじめ、研究活動を支援するための図書、学術雑誌、AV資料などを揃えています。

納付金

入学期 / 282,000円

授業料 / 年額: 535,800円 (前期分: 267,900円、後期分: 267,900円)
令和4年度実績



〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111 <http://www.hama-med.ac.jp/>

問い合わせ先

入試に関すること 入試課入学試験係

TEL.053(435)2205 FAX.053(433)7290

E-mail: nyushi@hama-med.ac.jp

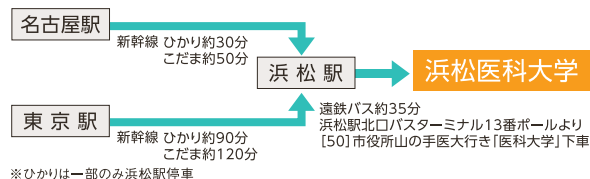
大学院に関すること 学務課大学院係

TEL.053(435)2204 FAX.053(435)2233

E-mail: daigakuin@hama-med.ac.jp

ACCESS

交通(新幹線・バス)



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

自動車

